

[学会] 第2回 千葉カルシウム代謝研究会プログラム

日 時：昭和55年10月11日（土）午後2時
会 場：千葉県自治会館 6F 大ホール
千葉市市場町1番3号 tel 0472-27-6181
当番世話人：千葉大学医学部第二外科教授 佐藤 博

1. 重症心身障害児の骨粗鬆症に対する $1\alpha\text{-OH-D}_3$ の使用経験

数馬欣一, 斉藤敏郎, 三之宮愛雄
蟹沢時子, 宍倉順子, 斉藤 篤
(国立下志津)

重症心身障害児はその病因が点頭てんかんやてんかん重積後遺症の症例が多く、先天性および周産期障害による脳性まひ患者にも難治性てんかん合併症例が少なくなく、多剤抗てんかん剤の長期服用を余儀なくされている。

抗てんかん剤を長期に服用すると肝の VitD 代謝異常により VitD₃ が不活化され、クル病や骨粗鬆症の要因となるといわれているが、当院の抗てんかん剤長期服用患者にもクル病、骨粗鬆症の患者が多く、最近10年間に20例の骨折患者をみている。

これら骨粗鬆症20例の患者に骨折予防の目的にて、 $1\alpha\text{-OH-D}_3$ $1\sim 2.2\mu\text{g}/\text{日}$ を4~12カ月投与し臨床観察を行った。昨年10月より観察を始め、現在までに $\alpha\text{-D}_3$ 服用症例に骨折患者をみず、血清 Ca 値、P 値はいずれも正常値内にあり、AL-P は異常高値から降下の傾向をみている。

2. 低リン血症ビタミン D 抵抗性クル病に対する $1\text{-}25\text{-(OH)}_2\text{-D}_3$ の投与効果

猪股 弘明, 安田敏行, 高柳直子
佐々木 望, 新美仁男, 中島博徳
(千大・小児)

本症におけるビタミンD代謝異常の有無や、最終活性産物である $1\text{-}25\text{-(OH)}_2\text{-D}_3$ の投与効果について一定した見解を得られていない。我々は本症7例に対して、 $1\sim 4\mu\text{g}$ の $1\text{-}25\text{-(OH)}_2\text{-D}_3$ を投与して、血中 P, Ca, AL-P, 尿 Ca/Cr % TRP, 一部に血中 $1\text{-}25\text{-(OH)}_2\text{-D}$ の測定をした。成績は、血清Pの完全な正常化を得られた症例はなく、2例で軽度上昇した。Ca に著変なし。

AL-P は、以前に $\alpha\text{-D}_3$ $5\sim 7\mu\text{g}$ 投与していた例ではその時より低下 $8\sim 15\mu\text{g}$ 投与例では不変であった。尿中 Ca/Cr は $2\mu\text{g}$ 投与で著明に上昇した。血中 $1\text{-}25\text{-(OH)}_2\text{-D}$ 濃度は $\alpha\text{-D}_3$ 中止1週目で、3例低値、1例正常下限、1例正常であった。

3. 原発性副甲状腺機能亢進症の経験

村上光右, 皆川秀夫, 森偉久夫
宮内大成, 真田寿彦, 伊藤晴夫
島崎 淳 (千大・泌尿器)

結石型11例, 骨型1例, 化学型1例, 計13例, の原発性上皮小体機能亢進症患者を経験した。

性別は男10人, 女3人。年齢は17~56歳, 平均40歳。尿路結石の部位は、腎結石10例, (両腎結石3例) 腎石灰化症1例, 膀胱結石2例, このうち再発結石は7例, うち1例は腎摘除術をうけていた。臨床症状は胃腸症状7例, 高血圧は5例, 易疲労感3例, 骨病変5例であった。術前血液化学検査では血清 Ca, P 値はすべて異常値を示した。AL-P 値は12例中11例が高値。% TRP 値84%以下のもの8例, 正常範囲内のもの5例。血中 PTH 濃度は29回測定中11回に異常値を示し, 1回でも高値を示した症例は12例中9例あった。Ca 負荷試験は4例中4例陽性。尿中 cyclic AMP は5例中1例にやや高値。尿中細菌培養は5例に陽性。腎機能は2例にやや低下がみられた。腫瘍部位は左側7例, 右側4例, 胸腺左葉1例。組織は腺腫10例, 過形成2例。術後テタニーが1例おこり, Sipple 症候群, MEA はなかった。

4. 副甲状腺機能亢進症の1例—術後 $1\alpha\text{-D}_3$ の使用経験—

寺野 隆, 中村真人, 三島昭彦
高木 平, 浜崎智仁, 神山佳久
西川哲男, 田村 泰, 熊谷 朗
(千大・2内)

症例は46歳女性で昭和52年全身関節痛で発症54年より